

丹波市男女共同参画センターだより

地域活動における男女共同参画

— 多様な担い手を 育む方法を考えよう —

私が関わっているあるまちづくり協議会は、先日“集まらない形”で夏祭りを実施しました。交流の場であり、子ども達の夏の思い出の場である夏祭りもコロナウイルスの影響で中止にするところがほとんどです。この地域も当初は中止も検討されましたが、老若男女多様なメンバーが色んなアイデアを出し合う中で、今回の夏祭りにつながられたそうです。

その夏祭りとは、事前に子ども達に手持ち花火を配り、自宅前などで花火を楽しむ様子を SNS (LINE のオープンチャット) に投稿することで一体感を出そうというもの。当日の SNS には 350 人を超える方々が参加し「素敵な企画!」「楽しかった」「この地域に住んでよかった」といったコメントとともに花火を楽しむ様子がたくさん投稿されました。

今、全国的に小学校区程度のエリアでまちづくり協議会などの「地域運営組織」を設立するところが増えていきます。丹波市では自治協議会や自治振興会がそれにあたります。

地域コミュニティの基礎となる自治会は人口減少、少子高齢化が進み、草刈りや清掃、神社や寺の管理といった役割を担うことが年々厳しくなっています。こういった個々の自治会での活動を補完することも地域運営組織の一つの役割です。しかし、私は女性や若者、事業所、地域外の住民など多様な人や団体を巻き込めることこそ、地域運営組織の大きな価値でないかと考えています。



柏木 登起さん

一般財団法人明石コミュニティ創造協会
常務理事兼事務局長
NPO 法人シミズシーズ代表理事

自治会の多くは1世帯1票の会員制です。つまり、世帯代表で構成されるのが自治会です。家父長制が根強い日本では世帯代表が男性であることが多く、かつ、自治会役員は世帯主になるものという固定的な意識が強いことから、自治会は男性中心に構成されがちです。

一方、新しい地域コミュニティの形である地域運営組織は全住民を構成員にしているところが多く、多様な方法で柔軟に運営できます。私に関わっている明石市の地域運営組織は、まちづくり応援隊などが運営の中心を担い、女性や若者、事業所など多様なメンバーが参画しています。家父長制を象徴する自治会も個人での参加を認めるところや、活動にはサポーターを募るところなども少しずつ増えてきました。

これからの地域づくりは、多様な人たちを「この指止まれ方式」で巻き込めるかどうか重要になってきます。そのためにも、冒頭の夏祭りの事例のように、多様なメンバーが“ワイワイ”と「対話」する雰囲気があることが大切です。

「男女共同参画社会の実現」とは、男性・女性の共同や参画はもちろん、障がい者、高齢者、外国人、子どもも含めて誰かが暮らしやすい社会を実現することです。暮らしに一番身近な地域こそ、「多様な人々」が「多様なアイデア」を出し合える環境をつくっていくことが、男女共同参画社会の実現に不可欠ではないでしょうか。

